

テーマ：アイヌの人たちの歴史・文化等（実践校）

胆振管内 白老町立白老小学校

■本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育み、アイヌ文化への理解を深めるため、総合的な学習の時間等において、ウポポイの見学を行うとともに、しらおいイオル事務所「チキサニ」の学芸員による講話及び体験活動を通して、アイヌ文化やアイヌの人たちの歴史について探究的に学習しました。

■ふるさと教育・観光教育の実践内容

①取組の様子

(1) 課題の設定

北海道の先住民族であるアイヌの人たちの歴史や文化に興味・関心をもち、発達の段階に応じたテーマ及び探究的な課題を設定しました。

(2) 情報の収集

各学年でテーマを設定し、様々な視点で情報を集めました。

第4学年では、社会科と関連付けて、マレクを使用したサケを釣る体験及びアイヌ文様の意味に係る講義等を通して、アイヌの人たちの生活について学びました。

第5学年では、ウポポイ見学や「ウレシパの杜」の探索等、アイヌの人たちの歴史と文化について学びました。体験活動は、しらおいイオル事務所「チキサニ」のプログラムを活用し実施しました。

(3) 整理・分析

調べた内容を整理・分析することを通して、アイヌの人たちがカムイに感謝し大切にしていたことや、身近な場面で歴史や文化と関わっていると気づき、学習したことの理解を深めました。

(4) まとめ

各学年で調べた内容を壁新聞や文書編集ソフトを用いてまとめるとともに、学習発表会や宮城県仙台市との姉妹校交流で実践発表を行い、アイヌの人たちの歴史・文化等についてさらに理解を深めました。



【サケの解体体験から活用方法を学ぶ様子】



【実際の弓矢を使用して狩猟体験を学ぶ様子】



【古式舞踊を練習する様子】

②児童の感想等

- ・サケ1匹だけでいろいろなものになり、1つでも捨ててしまったらアイヌの人たちはカムイがきてくれないと考えていたことを知り、サケなどの生き物を大切にしていたことがわかりました。
- ・「チキサニ」の方の話を聞いて、神様も人も幸せでないと幸福な暮らしができないと知りました。

■取組の成果（○）と課題（●）

- アイヌの人たちの歴史・文化等に関するアンケートで「アイヌの人たちの歴史や文化についてもっと調べたいと思う」と回答した児童の割合が61%から85%に、「北海道や自分たちの住んでいる地域をもっと好きになった」と回答した児童の割合が94%から100%に、「今、住んでいる地域行事に参加しようと思う」と回答した児童の割合が44%から50%にそれぞれ増加するなど、ふるさとの歴史や文化について興味を深めるとともに、ふるさとを大切にしていこうという心を育むことができました。
- 地域にある施設や人材を活用した多様な体験活動を行う前に、担当者から体験の意義等を説明してもらうことにより、児童が自ら考えて主体的に活動に取り組めるようになりました。
- 総合的な学習の時間と他の教科との関連を図ることや他者を意識したまとめの方法など、内容についてさらに検討する必要があります。